吃音をめぐる言説の社会学的分析

―吃音者を描く文学作品の一考察―

九州大学文学部人文学科

社会学・地域福祉社会学研究室

2018 年度入学

1LT18054W　　岡 美希

論文提出年月　　2022 年 1 月

要約

吃音（きつおん）とは、話し言葉が滑らかに出ない発話障害のひとつである。国内外において、100 人に 1 人の割合で吃音を持った人が存在すると言われている。二人以上での空間でのみ症状が現れるといった特徴から、吃音が社会的な障害であるという側面に着目し、本稿では、吃音をめぐる社会的状況を明らかにすることを目的として、吃音を描いた小説や漫画など計 6 つの文学作品を用いて、吃音者像を読み解いた。各文学作品における吃音者像の共通点としては、社会から疎外されているという感覚を持っているという点であった。また、治療法が確立されておらず、吃音は治らないものとしての認識が広まっている中で、症状が完全に解消するという吃音者の描かれ方がされていた作品があり、吃音の克服についても言及した。最後に、こうした文学作品に描かれた吃音者像が、障害の歴史の流れの中で変化していくものであることから、吃音の歴史を示したうえで、吃音にまつわる文学作品のゆくえを提示した。

目次

１．はじめに……4
２．吃音とは……4
３．各事例の分析……7
3.1　小島信夫，1953,『吃音学院』旺文社．……8
3.1.1　「異界」に留まり続ける吃音者……8
3.1.2　「模倣」としての吃音矯正……10
3.2　三島由紀夫，1960,『金閣寺』新潮社．……11
3.2.1　小説『金閣寺』における吃音の意味づけ……13
3.2.2　障害としての吃音の相対化……14
3.3　佐藤多佳子，2000,『しゃべれどもしゃべれども』新潮社．……17
3.3.1　自信の持てない吃音者……17
3.4　金鶴泳，2004,『凍える口』図書出版クレイン．……19
3.4.1　意思疎通のままならない吃音者……20
3.4.2　吃音にとらわれない吃音者……24
3.4.3　孤独を生きる吃音者……26
3.5　押見修造，2013,『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』太田出版．……26
3.5.1　声を上げられない吃音者……27
3.5.2　感情に左右される吃音者……28
3.5.3　カミングアウトする吃音者-1……28
3.6　椎野直弥，2017,『僕は上手にしゃべれない』ポプラ社．……32
3.6.1　逃げ続ける吃音者……32
3.6.2　カミングアウトする吃音者-2……34
3.6.3　吃音者の就職に関する課題……34
3.6.4　「演技」をする吃音者……36
4．まとめ……38
4.1　吃音者の苦悩――社会からの疎外……38
4.2　吃音の克服について……40
4.3　吃音を描く文学作品のゆくえ……40
参考文献……44